



日本では2月はとっても寒いですが、お天気が良いと星はとってもきれいです。ポーポキは夜空の星や月を見上げるとき、遠く離れた場所にいる友だちのことを想い、彼らが安全であたたかいところにおいて、優しくしてもらっているように祈ります。

Popoki's Hot News!



ポーポキは、フィジーでサイクロンウィンストンによって被害を受けた友だちに熱い思いとエネルギーをおくります！一日も早く普及・復興ができますように！



ポーポキのピース・ブック3や「ポーポキ友情物語～東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」！

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、「ポーポキ、元気って、なに色?」や、ポーポキのほかの本は、お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、および感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのさとにゃんから届いた平和。

「ふと、何かの折りに、かつて一緒にいた懐かしい顔や声を思い出す。思い出の顔はいつも笑っている。目頭と共に胸の奥が熱くなる。そっと目を閉じて、誰にともなくつぶやく「ありがとう。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



NEW! 瀬チャレンジ 2015 のビデオ!!! ポーポキの URL か下記のリンクでどうぞ!

<https://youtu.be/7LcYzZzNQYg> and <https://youtu.be/WYdWwmwogkE>

ポーポキ友情物語 in 大槌 2016.2.4~9

まゆこにゃん

2016年2月5日~8日まで、私たちは岩手県大槌町でポーポキ・ピース・プロジェクトとして活動を行いました。今回のメンバーは、まいかにゃん、きよにゃん、いえににゃん、まゆこにゃん、ほうにゃん、さとにゃん、そしてろにゃんの8人です。学生は皆、初めての大槌訪問でした。主な活動は以下の通りです。

- ◆ 1日目
 - ・ きらり商店街シフォンさんのお店でのワークショップ
 - ・ 伊藤陽子さんと大槌ツアー
- ◆ 2日目
 - ・ マストにてポーポキ友情物語の布の展示
- ◆ 3日目
 - ・ マストにてポーポキ友情物語の布の展示
 - ・ 植田俊郎先生から震災についてのお話を伺う
- ◆ 4日目
 - ・ エールサポートセンターにてワークショップ
 - ・ エコハウスにてワークショップ
 - ・ 伊藤さんのお話とまとめ



多くの方と出会い、お話をすることができ、とても充実した日々でした。今回は、私たちの大槌の活動報告です☆



～1日目～

2月5日の早朝、バスで大槌に到着した私たちは大槌でNPO「つどい」を運営する元持さんの出迎えを受けました。暖かいコーヒーを頂き、休憩を取らせていただいた後に、最初の活動場所であるシフォンさんのお店に向かいました。

シフォンさんのお店は、手作りの雛人形や手芸作品、そしておいしそうなケーキの写真が並ぶ、素敵なお店でした。ワークショップには、大船渡で「おはなしころりん」という読書ボランティアの活動を行っている、江刺由紀子さんが参加してくださいました。「おはなしころりん」は地域の子供達に読み聞かせをして子どもに本の楽しさを伝えたり、移動図書館で地域に本を運んだり、中・高校生や主婦などと地元民謡の紙芝居を作ったりなど、本を通じて多くの交流の場をつくる活動をしているそうです。江刺さんとシフォンさんと一緒に、「お母さんが子どもに注意すること」をテーマに自分たちの体験を元に、ポーポキの絵本を作ってみました。シフォンさんは小さいころから寝る時には枕元にはランドセルと洋服を用意するよう言われていたそうです。夜に津波警報が鳴った時にすぐに着替え、避難するためのもので、この地域では津



波への警戒が生活の一部になっていたということが印象的でした。その一方でこのような教えが、今の子どもたち世代には伝わっていないことが残念だとも仰っていて、昔からの知恵や教えをどう語り継いでいくのか、と考えるのは大事なことと思いました。

お昼の後、大槌の写真家、伊藤陽子さんの車に乗せていただき、私たちは大槌ツアーに出かけました。以前、伊藤さんの写真で見たことのある建物や、電柱、そして壊れた防波堤…震災から5年が経とうとしている今も生々しく残る津波の痕跡に圧倒されました。その一方で、新しい学校が建てられ、新しい道路や橋がかっているという大槌の復興の過程も見ることができました。大槌の海には、蓬莱島、通称ひょうたん島と呼ばれる島が浮かんでいます。津波によって島は形が変わってしまったそうですが、漁の守り神として町のシンボルとして人々から愛されているこの島から見た水平線と海の姿は、とても綺麗で私の心に残りました。

ポーポキ友情物語 in 大槌

まいかにゃん

～2日目～

朝から夕方まで、MASTで布の展示を行いました。学校の行事があった影響でお客さんが少なかったですが、それでも小学生以下の小さい子やおばあちゃんたちが来て絵を描いてくれました。今回一緒に大槌に来た「ポーポキ」ぬいぐるみは、子どもたちに大人気でした。



ポーポキだよ！よろしくね！



5歳の女の子が描いてくれました



中学生3人は本も読んでくれました





着物ルームにて

着物のリメイクを展示していた部屋でも展示をしました。ここでも多くの人から話を聞いたり、絵を描いてもらったりしました。

お昼過ぎに伊藤さんと城山公園(城址)に行き、大槌の町全体を見下ろすことができました。そこでは、伊藤さんが地震のあとにどのような経路で大槌町の沿岸部に入ったのかという話や、津波はどこまできたのか、火事がどの辺りで発生したのか等の話を聞きました。伊藤さんには1日目も車で、土盛りしている町中を案内してもらいましたが、山の上から全体を見下ろすとイメージがととてもはっきりしました。



城山からみた海側の様子

城山からみた山側の様子



《感想》

人が少ないこともあり、なかなか声をかけづらい状況でした。しかし、興味を持って展示を見てくれる人もいて、中には自分の震災体験を話してくれる人もいました。話したくないこともたくさんある中で、初対面の私に話してくれて嬉しかったです。子どもたちは絵を描くことに夢中でしたが、保護者の方は当時の様子を話してくれました。また、おじいちゃんおばあちゃんは、大槌の伝統料理や漁師の仕事など町の文化についても教えてくれて、勉強になりました。

また、城山公園に上がって町を見下ろした時、全体像がはっきりとしました。どこまで津波が来てどこで火事が発生したのか一目瞭然で、より直感的にイメージすることができました。復興が進んでいるのかわからなくなりました。

2日目の感想

きよにゃん

伊藤さんの大槌町案内について

伊藤さんに展示の間に大槌町の城山へ案内してもらいました。伊藤さんの大槌町案内は、写真を通して観ていた大槌町とは別世界のように、空は水色、山は碧く、海はコバルトブルーでした。今年でもう5年なのか、まだ5年なのかは、正直なところ、分かりません。分かってもいけないと思いました。ただ、少しずつではあるものの、進んでいこうとしている思いを感じました。昨日は、山からではなく色々な所へ連れて行ってもらいましたが、今日は、それを上から見る状態だったので、俯瞰的に見ることができ良くわかりました。海側では未だに土盛りを行なっており、町民の方も、不安があるようでしたが、今は信じることしか出来なような気持ちがひしひしと伝わってきました。

土盛りの情報やそのほかにも様々な情報は大槌町の今を知る事の出来る新聞岩手？新聞？などから情報得ているそうです。でも、僕が疑問に感じたのは、土盛りを行なっているけれども、未だに、堤防の修復、増設が完了していない点でした。山から見れば一目瞭然ですが、チグハグな光景でした。海からくる津波への対策である堤防が壊れたまま。しかし、人の住めるかどうか分からない土地の土盛りを行なっている。これは、様々な問題・事情があるのかも知れませんが、ぼくはいち早く堤防の完成を急いでほしいと思います。展示と案内が終わったあとは、夕食は、今日も美味しく頂きました。

本当に多くのことを感じて思っ経験しました。

人と人との繋がりは簡単なようで難しく

嬉しい気持ちや助け合う気持ちも、月日が経つにつれて、忘れ去られていくのかなと思うと少し悲しくなるような思いもしました。

色々な事がこれからもあると思いますが、

僕は、大槌町や他の町のことを忘れず、また来年や再来年訪れることが出来たらと思いました。

～3日目～

今日したコト

- ・展示
- ・植田先生宅へ訪問・震災時について聴講
- ・ポーポキ通信インタビュー

以上

展示は、今日は昨日、一昨日としていたかいもあり、少しずつ人が増えてきたように感じました。印象的だったのは、80歳くらいのおばさまが立ち寄ってくださり、俳句を書いてくださったことです。僕たち学生は俳句を学校でしか見たことがありません。日常的にも俳句に触れる機会はめったにありません。ただ、その方は俳句をつらつらと書いてくださり、その俳句の意味を解いてくださいました。そのことに感動し、印象に残りました。気持ちを文書やモノで表すのではなく、日本传统文化の俳句で表現するというはすこし気持ちが晴れ晴れとするような気持ちになりました。



その後、植田先生(※岩手県大槌町で震災前から地域に根付いた医療を施されている医師)が展示場へ来られました。そこから植田医院へ移動をしました。植田先生は僕たちのため、ス



ライドショーの形で震災当時の映像やデータ又写真などをみせてくださいました。そして、画面が変わる都度、その時の事を詳細に説明してくださいました。それが終わり、お茶を頂きながら、当時の事を違う視点からお話してくださいました。それは、兵庫県で起こった阪神淡路大震災などの震災時などの事象を交えてでした。僕が年としてはグループの中で一番若く、阪神淡路大震災の時には生まれていましたが、記憶

に鮮明に残るような年齢ではなかったので話している内容についていくのにやっとでした。その時に学んだことは、今回の震災から5年経ったが、まだまだこれからであるということです。それは漸く、落ち着きを取り戻してきた町でいろいろなことが問題として起こっていて、それに対してどう解決していくか等問題は山積みであるということでした。

今回、お医者さんにお話を聞かせてもらう機会というは大変貴重な時間と感じました。ほかの震災・津波で被災された方々から聞いてお話とは違う観点から話したからです。



様々なお話を聞かせて頂き、その後写真撮影をし、僕たちはマスト(大槌町の商業スーパー)の展示があるところまで戻りました。

戻ってからは、いえににゃんと、展示場のとなりにある **GURRUTO OTSUCHI** というすべて手作りのものが販売されてあるお店でおばちゃんくらぶの方々をインタビューしに行きました。皆さん、インタビューをととても快く受けてくださいました。

詳細はインタビュー記事をご覧ください。そのインタビューはとても緊張しました。理由は過去の事を伺ってもよいのだろうかと感じたからです。行うにあたって、悲しい気持ちにさせないだろうか嫌な記憶を思い出させないだろうかと常に感じていました。でも、皆さんは僕たち二人を優しく迎え入れてくださり、質問にも話せる事を話してくださり、感謝しきれない気持ちになったのを覚えています。

ここでも、最後に皆さんと写真撮影が出来たこと嬉しく思っています。

そして、3日目も美味しい夜ご飯を食べ、ふりかえりして、1日が終わりました。
最後に、02/07に展示に来てくださった皆様ありがとうございました。
植田先生、お忙しい中時間を作ってください、貴重なお話ありがとうございました。
おばちゃんクラブの皆さん、インタビューを受けて下さり、そして、楽しい時間をありがとうございました。



ポーポキ友情物語 4日目 2016年2月8日

いえににゃん

私たちは、大槌町でとても素敵で心が温かい勇気ある人々に出会いました。いくつかの場所を訪れる計画が組まれていたプロジェクトの最終日について報告します。まず私たちが訪れたのは、エールサポートセンターです。ここは、大槌町にある福祉施設で、高齢者の方々が集まり活動を行う憩いの場所となっています。そこで出会った方々は、私たちの訪問を喜んで、一緒にポーポキ・ピース・プロジェクトの活動に参加しました。今年は、インドネシアのポガを紹介しました。参加者にとって、聞きなれないバハサ語（インドネシアのことば）でしたが、みなさんは元気よく参加しました。平和や友情について語る時は言葉の壁なんて問題ではない、と感じました。布を出したとき、昨年のポーポキ友情物語活動に参加した人は自分の絵を見つけて喜んだりしました。絵を描きながら、おばあちゃんたちは、津

波のときの体験や、離れてしまった友人たちを恋しく思っていることや、政府が大槌町の復興再建のため十分に働きかけてくれないことに対する不満、そして災害前の美しい大槌町の景色を今も覚えていることなど、この活動を通して多くのことを共有することができた。



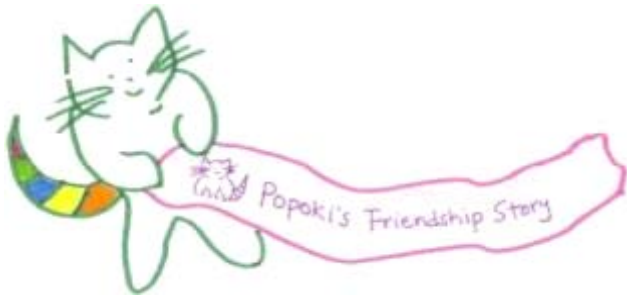
次に、エールサポートセンター付近の仮設住宅に住んでいる女性に会うことができました。彼女は、仮設住宅はまちから遠いことや一人で住んでいることで、とても寂しい、とおっしゃっていました。私たちにできることは少ないが、お話することでみなさんの心の負担や辛さが少しでも軽くなることを願ってやまない。

つぎに、エコーハウスというところで三人のとても明るく元気な方々に会いました。彼女たちは、2011年に起こった津波が多くものを持って行ってしまったことについて、またそれがどう町に変化を与えたのかという辛い経験も語ってくれたが、災害は我々の負けない強い気持ちまで取り除くことはできなかったとも語ってくれました。私たちは、彼女たちの語りから、津波からどう生き残るのかを聞くことができ、そして「元気」でいることの重要性を学ぶことができた素晴らしい出会いでした。



最後に、大槌町のコミュニティ・センターで写真家の伊藤陽子さんが大震災と津波についてのドキュメンタリーを上映してくれました。彼女は、災害前後の大槌町の様子を理解してもらうために写真を使って自らの体験を共有しています。大槌町の多くの方が、財産を失っただけでなく、友人や家族までも奪われています。しかし、大槌町に暮らしている人々は、故郷を愛しお互いを大切に思いながら、今も尚大槌町で生活をし、一生懸命暮らしています。ここでの出会いを通して、私は、彼らのような心の強い人々を支援し、そして忘れられないようにすべき、と感じました。





Popoki's Interview

聞き手：きよにゃん、いえににゃん

話し手：佐々木セツ子さん、川原畑洋子さん、木原久美子さん

(GURUTTO OTSUCHI SHOP)



今回訪れたのは、岩手県大槌町です。私たちが、ポーポキ友情物語の一貫で行ったインタビューで得た経験を皆さんと共有出来たら幸いです。

私たちは、GURUTTO 大槌というお店で、定期的集まっているおばちゃんくらぶのおうちのメンバーであるとても親切で暖かい3人の女性と出会いました。そこは、彼女たちは仲間が作った手芸品を販売しているお店です。

この町は、2011年3月11日にマグニチュード9.0の地震と津波によって、現在まで荒廃したかのような状態でした。佐々木さん、川原畑さん、木原さんは津波の時の経験や感じたこと、希望に感じたことなどを教えて頂きました。



Q: 今は何をしていますか？

A: 川原畑さん：私たちは、今、パッチワークをしています。

Q: 何か趣味はありますか。

A: 佐々木さん：私はパッチワークを作ることが好きですね。

川原畑さん：私は歌うことが大好きです。

木原さん：私は、ニュース番組をよく見ます。

Q: 津波が起こった時、どこにいましたか？

佐々木さん、木原さん：津波が起こった時は家にいました。

川原畑さん：私は、山田から家に戻る最中でした。

Q: その時、何を感じたり思ったりしましたか？

川原畑さん：私は怖かったです。私たちみんな、大きな津波が来て、とても怖かったです。

木原さん：私も本当に怖かったです。だって、津波がものすごい衝撃でしたから。その時、十分な水も無かったし、お薬も。その上、全てのものが津波によって流されてしまいました。

木原さん：私は、高血圧だったので、お薬を毎日飲まなければならなかったのに、お薬が津波で流されてしまった。それが、本当に困ったことでした。

佐々木さん：私は、お寺の近くに住んでいました。そこも、火事になったりしました。そして、私は、家も財産も無くなってしまいました。

Q: その時、安心するのに何かをしたり、思ったりしましたか。

川原畑さん：私たち多くの方は、今も仮設住宅で暮らしています。津波で家をなくしてしまったので、今は仮設住宅以外は何もありません。私は、大槌町の中心部に住んでましたが、今は、山の近くに住んでいます。なので、津波が来ない所だと安心しました。

Q: 最後に一言よろしくお願いします。

川原畑さん：インドネシアのアチェで地震と津波が起こった事をテレビで観ていて知りました。その時は、私は津波など、テレビの中の世界で起こるものだと思っていました。私たちは今、必死に復興に向けて努力をしています。私たちは、助けてくれたり、支えてくれたりした人たちにお礼を言いたいです。ポーポキの人たちもまた来てくださいね。



今回は、辛い体験などを思い出させてしまったかも知れません。でも、インタビュー快く受けてくださりありがとうございました。

お誘い！

ポーポキ友情物語活動は2011年4月に始まり、そろそろ6年目に入ります。ポーポキの布を通して、たくさんの人と数々の素敵な絵と出会うことができました。1～2か月で終わっていたポーポキ友情物語活動は、今回も大槌町で開催することができて感謝しております。一つひとつの出会いは、私たちの心にもお会いした方々の心にも残っており、「またお会いしたい！」と思いながら神戸に戻りました。

そこで、ポーポキ・ピース・プロジェクトは毎年、この寒い時期に「ポーポキのミニ平和映画祭」を神戸YMCAと神戸YWCAのみなさまと一緒に開催しています。今年は6回目です。そして、今年は「つなみ！」をテーマに5年間のポーポキ友情物語を通しての平和づくりをふりかきする予定です。ビデオや今回の参加者の報告など、盛りだくさんの予定です。ぜひ、ご参加ください！

ポーポキミニ平和映画祭 3月31日 18:30～ 神戸YMCA

詳しくは、本号の16ページをご参照ください。

ろにゃんより

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 93

今月のテーマは、足首と手首をストレッチ！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
2. では、手も足もまっすぐに伸ばして、仰向けになりましょう。腕と脚を伸ばしたまま、手首と足首を頭のほうへまげてストレッチをしましょう。今度は、手首と足首を遠くへ伸ばしてみて。両手と両足は同じ動きでも別々でもいいですよ。手首は頭のほうへ、同時に足首は前へというのはいかが？
3. つぎは、同じような動きですが、手首・足首をまわします。左へ10回まわしてから右へ10回。では、手と足を反対方向へまわすのはどう？あるいは、右手は左へ、左手は右へ、右足は右へ、左足は左へというのはいかがでしょう？
4. 最後は、仰向けのまま、右の骨盤と肩を耳のほうへあけて！今度は左側ですね。さて、ご自分でいろいろな組み合わせを試してみてくださいね。
5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

ご一緒にいかが？



次回のポー会： 3月18日 19:00~20:20 神戸 YMCA

2016. 3. 31 ポーポキのミニ平和映画祭 18:30~20:30 神戸YWCA
どなたでも参加できます！ 次ページをご参照ください。

3.15-18 Strange Beauty: 森住卓写真展 ピッツバーグ;15日にシンポも！ Remembering
Hiroshima Imagining Peace 他主催、ポーポキ・ピース・プロジェクト他共催(p.17を参照)

ポーポキの友だちからのお知らせ

・新刊案内！ 赤城修司『Fukushima Traces 2011-2013』 オシリス 2015年3月20日。

すてきな写真集です。注文などは：下記のサイト又は前田圭子さんへ。

m.dodo@h2.dion.ne.jp <http://www.shashasha.co/en/book/fukushima-traces-2011-2013/>

ポーポキと一緒に平和を創り出す集会 ～ポーポキのミニ平和映画祭 その6～ 「津波！平和づくり活動としてのポーポキ友情物語」

2002年度から不定期に開催している「平和を創り出す集会」では、事実をできるだけ正確に知り、市民の視点から、平和を創り出すために私たちに何ができるのか、ともに考え語り合い、行動の糸口を探すひとときを持ってきました。



マイカップを
ご持参
ください！

平和ってなにに色？平和ってどんな形？
映像で「平和」を表現することは可能？
一緒に「平和」を考えてみませんか？
ポーポキも参加するんだよ！



今回は、ポーポキ友情物語活動を中心にトークセッションを企画しました。
主に岩手県大槌町での津波の現状、動画や活動報告を踏まえて
おやつでも食べながら、みんなの想い、活動そして平和について話し合しましょう。

日時： 2016年 3月 31日(木) 18:30～20:30
場所： 神戸YWCA
神戸市中央区二宮町 1-12-10 tel. 078-231-6201
参加費： 無 料 (YWCA・YMCA 国際協力募金活動にご協力願います)
主催：ポーポキ・ピース・プロジェクト、神戸YMCA、神戸YWCA

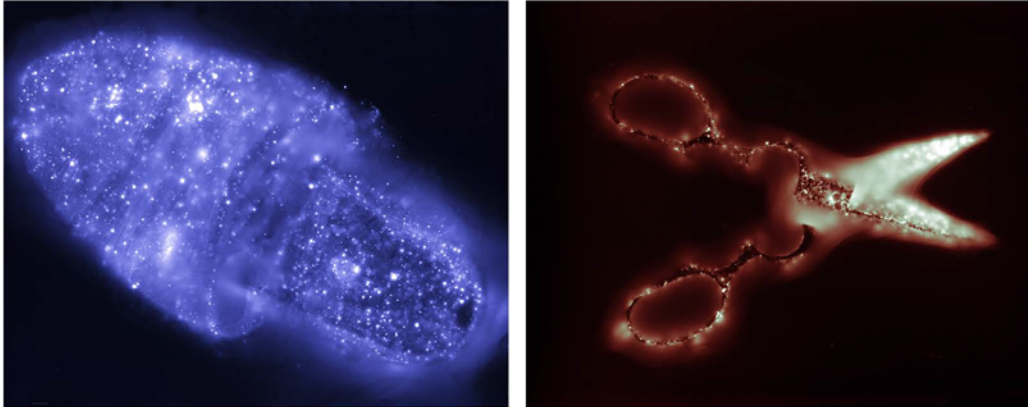
テーマ：津波！～平和づくり活動としてのポーポキ友情物語

プログラム (予定)

- 18:30 ごあいさつ ポーポキ友情物語活動とは？
- 18:35 岩手県上閉伊郡大槌町における津波被害や現状を知る
動画 「がんばっぺしおおつち」 写真:伊藤陽子 (6分)
- 18:45 ポーポキ友情物語 初期の動画
 - ① ポーポキ友情物語 in 大槌町 2011年5月 (6分)
 - ② ポーポキ友情物語 in 大槌町 2011.8.15-19 (4分)
 - ③ ポーポキ友情物語 in グアム 2011.9.8-13 (4分)
 - ④ 2013年、2015年参加者 一言！
- 19:10 ちょっとりお話ししましょう！
- 19:20 2016年2月の活動報告 動画&参加者報告
- 19:50 ディスカッション・共有・ふりかえり

お問い合わせ・お申し込み
ポーポキ・ピース・プロジェクト
ronniandpopoki@gmail.com
又は
神戸YMCA国際・奉仕センター(担当:松田)
〒655-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL (078) 241-7204
e-mail houshi@kobeymca.org





Strange Beauty: Autoradiography from Fukushima
March 15, 2016

The exhibit will continue through Friday, March 18 and be open 10:00 am – 4:00 pm

Join us for the first US exhibition of this work by the highly esteemed Japanese photographer Takashi Morizumi, marking the 5th anniversary of the Fukushima nuclear disaster.

5:00 – 6:00 Opening reception for exhibition, University Art Gallery, Frick Fine Arts Building

6:00 – 7:30 Panel: “Perspectives on Nuclear Power Past and Future,” with Patricia DeMarco, Ph.D., Zeba Ahmed, and Takashi Morizumi (via Skype).
Location: Frick Fine Arts Auditorium, University of Pittsburgh

Events are free and open to the public. Light food and drink provided.

I want to share the terror of radiation—the pain that does not have a sound or smell. It is invisible. It does not itch or have flavor. The radioactive material that I could not take in through my five senses has flowed into the world, far from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station.

Following the disaster, Japanese musician Ryuichi Sakamoto said to me that imagination was necessary to understand the extent of the risk. Five years have passed since the accident, and the radioactive material in these photographs continues to undermine our health. Anyone may imagine an extraordinary object shining in a nebula or in the deep sea that has never been seen by the naked eye.

Through these photographs I hope to convey a strong visual impact, to share the strange beauty that reveals the hidden threat of radiation.
—Takashi Morizumi

For more information: <http://rememberinghiroshima.org>, RHIP1945@gmail.com

Sponsored by Remembering Hiroshima, Imagining Peace; Center for Disaster Management; Department of History of Art and Architecture; University of Pittsburgh Art Gallery; and Popoki Peace Project; with support from Scenic Corporation of New York and the Asian Studies Center of the University Center for International Studies, University of Pittsburgh.

Popoki in the News

ーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひと人抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいからなんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

みよこにゃん

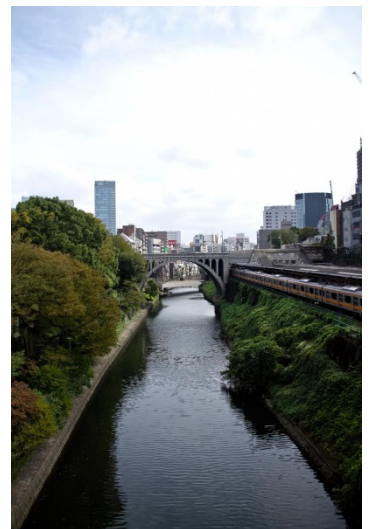
青い空
黄色い銀杏並木
緑の新芽
赤い夕焼け
白い雪の結晶
私の周りには平和の色があふれている

目覚ましのラジオ
ホームの発車ベル
放課後のトランペット
季節外れの風鈴
夜中のいびき
私の周りには平和の音があふれている

炊き立てのごはん
取り込んだ洗濯物
降りはじめの雨
縁日のトウモロコシ
路地のおしろい花
私の周りには平和の香りがあふれている



吐き出す煙で空が真っ黒な街があると言う
誰もいなくなった砂漠の町では風の音しかしない
そんな街ではどんな香りがするんだろう
私の平和の向こう側にどんな平和があるんだろう



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!